

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

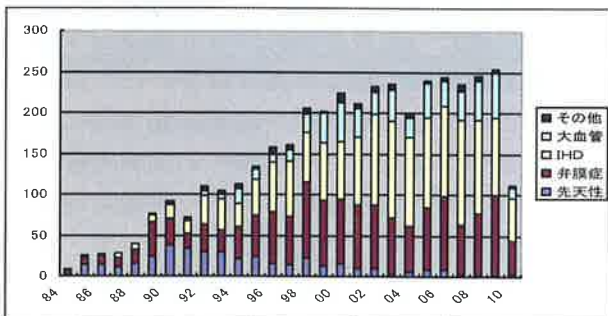
2010.10 vol.55

心臓大血管手術症例4000例

本年7月、昭和59年当院開設以来の心臓大血管手術症例がついに4000例を越えました。昭和59年南九州中央病院として旧鹿児島大学医学部付属病院跡に開設され、西村基、丸古臣苗、田畑伝二郎先生達により心臓手術が始められ、27年目にして4000例を越すことができました。これもひとえに先達の努力と皆様方のご協力、ご指導の賜と感謝しています。

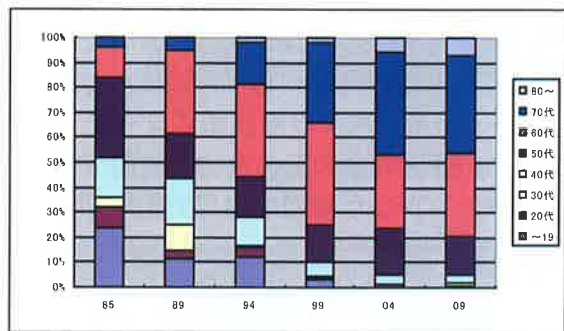
また、大動脈瘤+弁膜症+冠動脈疾患の症例など合併手術になる症例や胸腹部大動脈瘤症例などが多くなると同時に70歳以上の症例の割合も増え、以前5%くらいだったものが最近では半数近くにのぼるようになってきており、20年前の赴任当時と比べ格段に手術の難易度が上がってきているように感じます。

心臓大血管手術症例数の推移



開設当初は年間24～5例で弁膜症、先天性心疾患（心房中隔欠損症）が主でしたが、平成元年故有川和宏先生の赴任により年間症例数90例となり、以後、漸次症例数が増え最近の10年間は200例を越すようになってきています。最近では冠動脈疾患の割合が増え、弁膜症や大動脈瘤との合併手術を含めると半数以上を占めるようになりました。弁膜症もリウマチ性のはほとんどみられなくなり、変成や虚血性心筋症に伴う僧帽弁閉鎖不全、石灰化による大動脈弁狭窄が増えてきており、弁形成や生体弁使用の症例が増えてきています。

年齢層別割合の推移



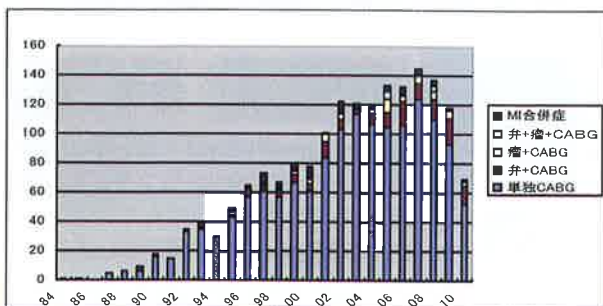
しかしながら、年間200例を越すようになってくると、外科医だけでなく麻酔科医、手術室看護師、人工心肺技師などの技術、連携がよくなり個々の症例の手術時間は短縮されてきています。単弁置換だけでは物足りないような感じになってしまいます。チームとしての技術を維持、向上させていくためにはやはり200例以上の手術が必要なのでしょう。

平成12年泌尿器科が再開されたことにより血液透析中の症例も問題なく引き受けられるようになり、手術症例数の増加に貢献してもらっています。平成16年には新しい手術室が完成し、心臓血管外科用に広い手術室が二部屋用意されました。これにより、2例同時手術が可能になり、緊急、準緊急症例に対応できるようになりました。もう少しマンパワーがあれば全ての緊急症例に対応できるのですが、新初期研修制度だけのせいではありませんが、外科医不足で全症例には対応できていないのが現状で、時に皆様にご迷惑をおかけしていることとお詫び申し上げます。

今後、5000例を目指して地道に頑張っていき、鹿児島県の循環器疾患治療の一翼を担う責任を果たしていきたいと思っております。皆様方のご指導、ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。

（文責：院長 山下 正文）

虚血性心疾患手術症例数の推移



職 場 紹 介 栄 養 管 理 室

栄養管理室は現在、管理栄養士5名、栄養士1名、調理師14名の総勢20名で栄養管理業務に取り組んでいます。

院内でも栄養管理室の場所が不明な方が多いのですが、栄養管理室は東病棟エレベーターの裏に位置しています。その中で毎食の食事のオーダーを受け調理、盛り付け、配膳を行っています。当院は、特別食の件数が九州ブロック内で1位となっています。提供する食事の8割はエネルギー、たんぱく質、塩分の調整を必要とします。毎食の食事を衛生的に安全に時間に遅れることなく患者様のもとへお届けするために主食を計量し、盛り付けを始める食事提供1時間前は、厨房内が張りつめた空気に包まれます。栄養管理室では、療養中の患者様に食事を楽しみとじていただきたいと思い平成22年度は、若手の栄養士と調理師をリーダーに5月より隔週毎にミーティングを行い①鹿児島産の旬の食材を使用②郷土料理のアレンジした献立を毎月1回実施してい



た松花堂弁当に組み込むことを目標にリニューアルをおこなっています。詳細については、8月よりホームページに掲載しておりますので一度ご覧ください。

栄養管理業務は、5名の管理栄養士が病棟担当制をとっており栄養管理計画書の作成、栄養食事相談を行っております。ここ数年の傾向としては、原疾患や治療の副作用により食欲低下をきたした患者様への食事内容についての相談件数が増加しており栄養管理室だけでは対応が難しいと感じております。栄養状態を判定し個々に応じた栄養管理を行っていくために、鶴川ディレクターのもと看護部、薬剤科、臨床検査科等他部門との連携を図り栄養サポートチームについてもより充実させるようスタッフ一同努力しますので今後ともよろしくお願いたします。

(文責：栄養管理室長 橋本 有吏)



新 任 紹 介



第一循環器科医長
病態生理研究室長

かたおか てつろう
片岡 哲郎

平成22年9月1日より赴任させていただいております循環器科の片岡と申します。明るく元気なチーム医療を目指しております。幅広く多くの方と連携して、良い仕事が出来たらと思っています。色々とお世話になるとは思いますが、よろしくお願致します。



産 婦 人 科 医 師
ふかまち のぶゆき
深町 信之

9月1日より勤務させて頂いております。当センターの役わり、システムを理解し産婦人科診療に取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願致します。

登録医医療機関紹介「医療法人青仁会 池田病院」

当院は鹿児島県鹿屋市にある189床の病院で8つの内科（一般内科・腎臓内科・肝臓内科・血液内科・神経内科・消化器内科・呼吸器内科・循環器内科）と整形外科、放射線科、リハビリテーション科、歯科を備えています。診療の中心は透析医療ですが、ここ最近ではそれ以外の診療科への紹介がとても増え、大隅地区でも今後、重要な責任を果たさなければいけないと考えています。また、最近話題のCKD外来も2010年4月より開始し患者さんが増えている状況です。当院循環器科は、私が鹿児島医療センター第2循環器科に長く従事していたこともありまして、2010年9月より血管造影室を新設し心臓カテーテルを稼働いたしました。さらに来年度には心臓リハビリテーションも新設する予定としています。今回、血管造影室を開設するにあたりまして、当院スタッ

フが鹿児島医療センターで研修させていただき、とてもいい経験ができたと思っています。



今後も地域医療のため邁進し、鹿児島医療センターと連携を組みながら患者様の為の医療を行っていきたく思いますので今後とも宜しくお願い致します。
(池田病院 循環器内科 池田 大輔)

診療ひとくちメモ 『臨床病理科』

2001年に転移性乳がんの治療薬トラスツズマブの発売が開始されて以来、がんの化学療法の分野において新しい分子標的薬が続々と登場し、従来のがん化学療法を根底から塗り替えようとしています。すでに慢性骨髄性白血病やGIST（消化管間質腫瘍）ではイマチニブ、悪性リンパ腫ではリツキシマブ、肺がんではゲフィチニブ、多発性骨髄腫ではボルテゾミブなどが出て、従来の抗がん剤の治療成績を大きく凌駕する成果を上げています。

ただし、これらの分子標的薬は、効果も絶大ですが副作用も強く出る場合があり、標的となる分子の過剰発現が認められる症例に適応が絞られています。そして病理診断により治療対象の癌患者の選択をするようになってきています。したがって、病理医は病理診断により癌の存在診断を適切にすることはもちろんのこと、癌細胞や癌組織の有する分子標的を免疫組織化学染色、FISH

法などの手法を用いて適切に評価することが強く望まれています。実際の癌組織における新しい治療標的分子を明らかにすることは、様々な癌組織に接している病理医こそがなせる重要な研究方向と考えられます。

当医療センターも、地域のがん拠点病院として、多くの医療機関との間ががん診療連携・地域連携が盛んになりつつあります。臨床病理科（病理診断科）もそのような流れの中で、他院で手術された手術標本や、あるいは逆に、当院で手術された患者さんの病理組織診断報告書や病理標本等のやりとりが増えてきています。ここ1～2年のうちに分子標的薬が盛んにがん治療に用いられるようになってきたからです。今後もますます、病理組織標本の連携も必要になってきています。我々病理医の責任がさらに増してきていると感じています。

(文責:臨床病理科 野元 三治)



外来師長

たちやま せつこ
立山 節子

9月1日付けで外来師長として赴任致しました。赴任当日の眩しい日差しと青空、そして雄大な桜島その美しい景色は印象的でした。この美しい

鹿児島での新たな立場、新たな環境でのスタートをきることとなりました。1か月が過ぎましたが毎日が慌

ただしく過ぎ、毎日が新しいことの連続です。そのような中、皆様にあたたかく支えていただき感謝しています。外来勤務では、患者の皆様「この病院に来てよかった」と言っていたように安心して満足のいく看護の提供が出来るように、また地域医療連携について多くのことを学び少しでもお役に立てるようになりたいと思っております。皆様、今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

緩和ケア研修会についてのご案内

「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」

医師のみならず、看護師、薬剤師、MSWなど多職種参加の研修会とし、県外講師として、KKR札幌医療センター 緩和ケア科 瀧川 千鶴子先生、九州がんセンター 精神腫瘍科 大島 彰先生にお越しいただく予定です。

- 日 時：平成23年1月9日(日)・10日(月)
- 場 所：かごしま県民交流センター

詳細は、HP(<http://www.kagomc.jp/>)をご覧ください。

問合せ先 耳鼻咽喉科 松崎 勉 matsu@kagomc2.hosp.go.jp

11月看護研修のご案内

主催 鹿児島医療センター看護部教育委員会

集合教育

「健康な皮膚を保つためのスキンケア～失禁患者のムレ予防」

- 講 師：皮膚排泄ケア認定看護師 橋口 智恵
- 日 時：平成22年11月26日(金) 18時～19時
- 場 所：大会議室
- 対象者：医療関係者

参加ご希望の方は準備の都合上、各コース3日前までに企画課(松尾)までご連絡下さい。院外の方のご参加をお待ちしています。

電話 099-223-1151 (内線 7303) FAX 099-226-9246

編集後記

10月に入り空気も爽やかになり、過ごし易い日々が続くようになりました。私の生まれ育った京都府南部の山城地方は平等院や石清水八幡宮などの神社仏閣があり、また、京都・大阪・奈良の中央に位置し、宇治川・木津川・桂川が合流し淀川となる昔からの交通の要所でもあります。そのなかでも私の出身地でもある大住という地区の由来は、気付かれる方もいるかもしれま

せんが、実は鹿児島の大隅から来ています。古くは平城京の時代に鹿児島から淀川、木津川を通して奈良の都に行く際の休憩地として集落ができたと聞いております。毎年この時期に行われる豊年祭も『隼人舞』と呼ばれています。関西に行かれる際には有名なところもいいですが、そんな由来のある地域を訪れてみてはいかがでしょうか。(担当:井上)

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号 (代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246

<http://www.kagomc.jp>

脳卒中ホットライン ▶ 090(3327)5765

【地域医療連携室】 濱田・今泉・井上・西・森・中島・吉留・木ノ脇・水元・酒井

直接電話 ▶ 099(223)4425 フリーダイヤルFAX専用 ▶ 0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

